

平成 30 年度シカ管理検討委員会会議録

平成 30 年 7 月 23 日開催

- 【事務局】 1 開 会
- 【事務局】 2 あいさつ
- 【事務局】 3 議 事
- 議 題 (1) 平成 29 年度シカ管理対策の実施状況について
- (2) 平成 29 年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について
- (3) 平成 30 年度シカ管理対策について
- (4) その他
- 事務局より説明 (議題 (1) 及び (2))

【委員長】 ありがとうございます。ただいま説明いただいたことに対して議論したいと思います。皆様御質問御意見等ございませんでしょうか。

【深澤委員】 1 点目は、資料 1 の 4 ページについてですが、狩猟免許を取得する方々が多くなってきており、これは全国的にもそのような状況にあると聞いています。岩手県内で、平成 29 年度まで狩猟免許試験の合格者がどのように推移しているか教えていただければと思います。2 点目は、資料 1 の 6 ページのシイタケ被害額についてですが、平成 27 年度に 0 であったものが、平成 28 年度に 100 万円に急増している理由を教えてください。

【事務局】 まず、1 点目の狩猟免許新規取得者数の状況については、平成 24 年度は 125 名、平成 25 年度は 219 名、平成 26 年度は 283 名、以降は 280 名前後で推移しております。その間の取組みとしては平成 25 年度から、免許試験を実施する会場設定の際に市町村の要望を踏まえて行っております。また、平成 26 年度からは、担い手確保のための研修会を開催しており、研修会の中身としては、狩猟に興味を持ていただき免許取得につなげてもらうための一般向けの研修会、市町村における産業祭等のブースに出展させていただき、狩猟について興味を持っていただくということを実施しております。その取組みの結果もあろうかと思いますが、新規の狩猟免許取得者数は伸びてきているところです。

2 点目のシイタケ被害額の推移につきましては、震災後、出荷制限によりシイタケの生産に取り組むことができなかつた方々が、再度栽培に取り組むようになり、これまでは被害としては報告されていなかったものが、新しく取り組み始めたまたは再開された方々が被害を受けたということで認識しておりますが、森林整備課さんの方ではよろしいでしょうか。

【佐藤委員】 そのとおりです。

【委員長】 他に何かありますでしょうか。

【宇野委員】 平成 29 年度の捕獲頭数が 14,000 頭以上であったということですが、資料 2 で 8 ページに捕獲に関する結果について、CPUE と SPUE に関して、平成 28 年度の数値を教えてください。

【事務局】 CPUE は 0.4 切る程度で、SPUE は手元にありません。

- 【宇野委員】 銃による捕獲について、平成29年度は5,843頭の捕獲に対し、71,970頭の日撃があり、平成28年度は4,243頭の捕獲に対し44,483頭の日撃があるとのことで、平成29年度に日撃が増加している理由を教えてください。
- 【事務局】 日撃数が増えている理由について、シカの数が増えているという話もあるかと思いますが、7ページの捕獲努力量ということで、銃撃をする方々が現地に行かれた数も2,000人ほど増えているので、その分、シカを目にする機会は多かったのではないかとこのところでは。
- 【委員長】 猟友会の御意見をお聞かせください。
- 【菅野委員】 日撃数は捕獲したときのみ報告しており、捕獲数が増加すれば日撃数も増加しますが、一方、捕獲しなければ、日撃をしても数字に表れていないという状況になっております。平成28年度と29年度の数值には大きな開きがあるかと思いますが、捕獲票に記載した日撃数の数字の積み上げによる結果となっております。
- 質問ですが、資料No.1の9ページのモニタリング調査の中で、捕獲個体調査の結果を教えてください。
- 【事務局】 本日資料として御用意しておりませんでしたので、猟友会の総会や、ハンターさんが集まる機会に御協力いただいてまとめたデータの推移について還元させていただきたいと思っております。
- 【宇野委員】 日撃数についてですが、捕獲したときだけ日撃数を数えると、捕獲効率や日撃効率が過小に評価されてしまうため、データの収集方法について検討させていただきたいと思っております。また、平成35年度までに平成24年度末の個体数4万頭を半減させるという目標があり、データが集まってきている中で、平成35年度までの計画期間の中間の際に、新たな個体数推定値を踏まえた目標設定の見直しが重要になると思っておりますが、どのように考えておられますか。
- 【事務局】 個体数推定については、この後、資料3で説明させていただければと思っております。
- 【委員長】 他にありますか。
- 【千葉管理役】 資料1の12ページですが、なぜ山田でセシウムが高い数字のシカが獲れたのか気になるところです。放射能の広がりからすれば、両磐、気仙で高いのは分かりませんが、山田で高くなるということは、このシカは長距離を移動していたことから高くなっているのかとは思いますが、理由は分かりますか。
- 【事務局】 ここで明確なお答えはできませんが、御推察のとおり広域移動している可能性はあると思っております。ただし、捕獲場所しか把握できていないため、その個体がどこから来たか等を見ないとはいっきりとしたことは言えないと思っております。
- 【委員長】 雌雄の内訳は分かりますか。
- 【事務局】 今すぐは分かりません。
- 【委員長】 一例だけですので一般的なことは分かりませんが、今後の状況を注視していく必要があるとは思っています。

- 【菅野委員】 先ほどの捕獲個体の調査に関することですが、現在、捕獲個体全頭の調査を行っています。県内を区域に分け、区域ごとに、例えば数十頭ごとの抽出調査で代用することはできないのでしょうか。というのも、昨年度から下あごに加え、尾を採取しており、1月に入ると腎臓も採取しております。採取した検体はかなりの量になります。1カ月に一度検体を集めるのですが、月に500頭も捕獲しているところでは冷凍庫に入りきらないということもありますので、抽出調査について検討していただきたいと思います。
- 【事務局】 ありがとうございます。調査を行っている環境保健研究センターと相談して地域ごとの抽出方法を対応できないかも含めて検討していきたいと思います。
- 【委員長】 他に何かありますでしょうか。
最初に申し上げる必要があったと思うのですが、資料1は事務局からの報告事項です。資料2については環境省に対する報告に関する内容であるため、協議事項となりますので、その点を考慮したうえで御意見等をよろしくお願ひします。
- 【宇野委員】 資料2の3ページの人材育成の観点について、従事者の体制ですが、これは狩猟免許の取得を含むということですか。
- 【事務局】 そのとおりです。新規で狩猟免許を取得した方も認定事業者の従事者として入って来ていますので、その取り組みというのは反映されていると思います。また、免許所持者が別の免許を取得するケースもあるかと思ひます。
- 【宇野委員】 狩猟免許の取得者のうち、猟友会に入る人数はどのようになっていますか。
- 【菅野委員】 具体的な数字は持ち合わせておりませんが、全体的に狩猟者登録数あるいは猟友会の会員数は微増となっております。ただ、第一種の数には伸び悩んでおり、わな免許者数が増加しております。年間約300名の方が狩猟免許を取得しますが、4割程度は、既に何らかの免許を取っている人が新たに別の免許を取得している状況ですので、必ずしも免許の取得者増が猟友会の会員増につながらないという状況です。それから、かなりの方が高齢により、銃を返納していることもあり、新規の取得者がそのまま免許所持者数の増加にはなっていないと思いますが、下げ止まりとなっている状況です。
- 【藤澤委員】 私は狩猟免許試験の試験員をさせていただいております。現在、野生鳥獣による被害が増加している中で、毎回100名近くが受験している状況です。合格率も90%を超えておりますが、免許を取得した後に、どのようにして実際の猟に入っていたかを考えていかなければならないと思ひております。また、毎回100名近くが受験し、若い方々も数多く受験している現在の状況を考えると、将来は決して暗くはないと思ひます。狩猟免許の取得者をいかに実猟に向けていくかについて、関係機関と相談しながら考えていければと思ひます。免許取得後、猟を行うために、どの程度費用がかかるかも重要になると思ひますし、何らかの補助制度があれば助かるのではないかと思ひます。
- 【事務局】 他に何かありますでしょうか。特になければ、次の30年度の計画の説明をお願いします。
- 【事務局】 資料No.3について説明。
- 【委員長】 ありがとうございます。皆様から御意見等ありがとうございます。

- 【片岡委員】 東北森林管理局です。国有林道の除雪についてですが、今年度は、宮古市で2路線、遠野市で7路線を予定しております。
- 【深澤委員】 県森連です。報告になりますが、6 ページ(3)の実施内容に忌避剤塗布とあります。今、林業関係の唯一の塗布剤としてヤシマレントがあるのですが、現在製造されているもので、今年9月までの使用期限のもののみで製造中止になっています。そのため、塗布ではなく、吹付けという形での忌避剤になると思います。
- 【事務局】 ありがとうございます。
- 【委員長】 私から一つで、平成30年度の捕獲目標についてです。11,000頭にしたいとこのことですが、これについて2ページの有害の実施計画では8,500頭となっています。これは、各市町村が報告してきた数字を積み上げたものになると思いますが、折角市町村が目標としてあげてきたものをこの段階で減らしていいものかと疑問に思います。
- 【宇野委員】 私も同様の意見です。4ページに計算方法についての記載があり、平成29年の大雪によって捕獲数が伸びたとのことですが、ある程度目標を高めを設定したほうが良いと思います。予算の関係等もあるかと思いますが、昨年度の実績の中で、シカの目撃頭数が非常に多いことから、もう少し高めに設定していただきたいというのが正直なところです。
- 【事務局】 おっしゃるとおり29年度は14,000頭を超えたということで、確かに目標をもう少し高くという意見もあるかと思うのですが、昨年度の目標を設定したときも10,000頭以上というところを出させていただいて、それ以上の目標ということになりまして、結果的に11,000頭という目標を掲げさせていただき、達成できたということです。ただ11,000頭と目標を置いたのも、これまでの中で最も高い目標の設定であるという状況があります。今年度についても最低限であり11,000頭で終わりということではなく、まずは11,000頭以上は確実に獲りたいということで、11,000頭という数字で掲げさせていただけないかなというところです。
- 【委員長】 昨年度は大雪の影響があったことを考慮した方がいいとは思いますが、実現可能な数を掲げるわけにはいかないと思います。しかし、数字を扱う以上は数字の整合性を図る必要があるのではないかと思います。繰り返しになりますが、各市町村の数字を積み上げたものである8,477という数字は、整合性の関係上、ある程度尊重すべきではないかと思います。予算的にも措置できるからこそこの数値があがってきているのだと思います。
- 【事務局】 市町村に今年度の有害捕獲の実施状況を確認しても良いですか。
- 【河野委員】 遠野市では有害捕獲の状況ということで、捕獲目標に関しては、この資料の8ページに記載してあり、市単独補助もありますが、協議会が主体となって、捕獲に取り組んでいるところです。また、今年度の目標については、2ページに1,200頭と掲げており、この目標達成に向け捕獲を進めていくと考えているところです。
- 【菅原委員】 大船渡市では昨年度1,400頭を捕獲しておりますが、これは9月までです。予算の割り当てが1,300頭余りで、予算を上回るということで、9月の中旬まででストップをかけたものです。今年度については、ハンターから話を聞くと密度が薄くなったという表現をしており、今現在の捕獲は昨年を下回って推移しているという状況です。

- 【吉田委員】 盛岡市では捕獲数は少ないですが、29年度実績が80頭に対して30年度は87頭ということで、水稻被害も出ているため、有害捕獲は増やしていきたいと考えておりますが、控えめに87頭としたところです。おっしゃるとおり県全体の有害7,061頭の実績に対して8,477頭と数字になっていましたので、前年実績約14,000頭を踏まえると、11,000頭というのは消極的な数字かなとは思いますが。
- 【委員長】 一関市が実績150頭に対して目標500頭とかなり増やしていますが、関係者の方はいらっしゃいますか。
- 【中村委員】 県庁の農業振興課の担い手対策課長の中村です。国庫事業の有害捕獲の予算を確保して各市町村に配分している状況です。予算につきましては、昨年度、遠野市から、予算が少ないということで8月までには撃ち終わってしまう、なんとか予算が欲しいというお話をいただきました。大船渡市からも話をいただきました。そういうことで今年については予算がなくて撃てないということがないように、約1,600頭分の予算を増額させていただき、それが反映されているものと思います。今の市町村等の状況からいけば予算さえあれば撃ちたいということで、可能ではないかなと思っているのですが、一方で心配しているのは、今年の捕獲数は去年より遅れていると聞いており、遅れているという状況は何が原因かと不安に感じております。これについては大船渡市から密度が薄くなったという話も出ておりますが、各市町村が8,500頭とあげてきているので、達成できるかどうかは別として、8,500頭を尊重したいと考えています。そういう意味で有害捕獲の予算はいつも早く切れてしますので、今回、自然保護課あるいは猟友会の方々にもお願いして、できれば指定管理の捕獲時期を前倒して、指定管理で計画数6,500頭を捕獲していないので、さらに捕獲していただくよう検討してもらいたいというところです。
- 【委員長】 ありがとうございます。8,500頭についての背景が分かったかと思います。実際に捕獲をされる狩猟者の方たちがどう受け止めるかにも配慮しなければならないですし、今年の捕獲数が少なめに推移しているという話も出ており、これは昨年度数多く捕獲した影響によるものとする、それ自体は喜ばしいことだと思います。それが事実だとすると今年度の捕獲目標を決める上では考慮しなくてはならないと思います。そのようなことを考えたうえでもう一度検討していただけないでしょうか、というところです。

【事務局】 課長の高橋でございます。補足で御説明したところではありますけれども、先ほどの4ページの表1、有害捕獲につきましては29年度の実績を積ませていただいているところです。予算の増額もしていただいておりますし、かなりの頭数が見込まれるのではないかとということもあり、有害捕獲についてはこのような計算の方法をさせていただいております。一方、狩猟と指定管理につきましては、これまでの推移を見ますと、必ずしも来年度の狩猟であれば1,000頭獲れるとは言い切れない、また、指定管理につきましても、これまでの実績を見ますと、ずっと6,000頭以上の予算を組んでおりますが、4,000頭程度に留まっている。一方、昨年度は2月の大雪で頭数が増加したところです。月別のものを示していないものですから分かりにくいと思いますが、やや特異な数字が出ていたのであろうと考えています。この他に時期的に皆さんで連携が一番大事と申し上げましたけれども、このまま推移して最後の冬の時期で目標まで頑張ろうということが、捕獲する体制として可能なかどうかと、今年が14,000頭を出した初めての年ですので、原因も分かってしっかりと捕獲できると分かれば、来年度の目標頭数を改めて考えてもいいのではないかと事務局として考えたところです。また、4万頭の推計の方は、あと2年ほどかかると申し上げましたが、順調に10,000頭以上獲っていきますと、数年で8,000頭、7,000頭というふう落ちていく、全体の数が減っていきますと、これが15,000頭、20,000頭と目標を上げていく話にはならない仕組みになっております。着実に10,000頭を超える数を獲っていくことで35年の何年か前には8,000頭、7,000頭と下げていっても目標が出るという流れがありますので、そのあたりも考えて11,000頭とさせていただいたところです。

【堀野委員長】 ありがとうございます。私は必ずしも11,000頭を上げるべきと言っているのではないのですが、今のままだと、市町村の積み上げ8,477頭の数字を下げる根拠があるか、また、筋が通るかということなんです。また、捕獲がすすんでいけば、目標頭数は減っていくということは、そのとおりなのですが、実際に県内のシカの数が思惑どおりに減っているかは分かりません。去年一昨年と数多く捕獲しているのですが、当初の4万頭という数は非常にあやふやなもので、極めて大きな推定幅があり、実際には4万頭以上いる可能性があります。最終的に11,000頭になるとしても、なぜ11,000頭なのかもう少し説明が必要ではないかと思えます。言い方が悪いですが、これだけ見ると、11,000頭ありきに見えてしまう。この辺の説明がつくかどうか重要だと思います。

【事務局】 捕獲をする側の体制として、例えば猟友会の方ではどう考えられているのでしょうか。または市町村でお願いする体制についても、それぞれの猟友会のこともあると思うので、そのあたりはいかがでしょうか。参考のためにお聞きできればと思います。目標数が上がっていくということは良いことでもあるのですが、獲る側の体制として昨年度の状況も踏まえて、目標を上げていくということについて、実現の可能性と申しますか、体制的なところはどのようになっているのでしょうか。

- 【菅野委員】 指定管理の実施時期の前倒しについては、10月までの有害捕獲の主流はわなです。木の葉が落ちないうちは、見通しが悪く、事故につながるため、銃による捕獲は11月からとしているところです。指定管理の前倒しをしようがしまいが、捕獲頭数はそれほど変わらないと思います。それよりも、3月中は現在狩猟で捕獲しているところですが、この3月中の捕獲を有害または指定管理で対応できるようになれば、捕獲数は伸びると思います。
- 【事務局】 11,000頭という数字についてもう少し上げていったほうがいいのか、それとも組織体制上なかなか上げるのは難しいのかどうでしょうか。
- 【菅野委員】 何とも言えないです。29年度が14,000頭ですが、それよりも3,000頭も下がったということですが、何とも言えないところです。というのは、昨年度1月以降の捕獲頭数が増加した原因は雪の量が例年に比べて多かったということで、山の上の方にいたシカが里に下がり、獲れやすくなったためです。逆にいえば積雪のために車が山の方まで入れなかったということもありますが、山に一步入ればシカが数多く捕獲できるということもありましたので、積雪に助けられたということと言えます。ですから11,000頭は全く無理な数字ではなくある程度可能な数字だと思います。
- 【事務局】 御意見として、有害捕獲の目標数につきましては、各市町村とももう少し上げていくことは可能であるし、体制としても夏の部分に不可能ということではない。ただ、指定管理はなかなか難しい、簡単に伸ばせないという御意見があったと思いますので、そのあたりを論理的に説明できるよう、委員長とも御相談して内容を見直したいと思います。少しお時間をいただいて、後日目標数について御示相談させていただくという形でいかがでしょうか。
- 【委員長】 今年の捕獲でシカが薄いということが、何らかの形で、数字で表して組み込めるのであれば、シカが減っているから、あるいは何らかの原因で捕獲が難しくなっているという状況が今年起っている。しかし、目標値は変えない、昨年度と同様に11,000頭とするというのであれば、むしろ積極的だと思います。そのようなストーリーが欲しいと思います。
- 【事務局】 上げるかどうかということだけではなくて、11,000頭なら11,000頭の根拠を示したいと思います。
- 【委員長】 どんな数字にしたとしても、やはり説明をきちんとしないと、例えば12,000頭にするなら、なぜ12,000頭なのかが必要になると思います。
- 【事務局】 この会議の前に様々な情報収集に動いたのですが、いろいろ生の声などもいただきましたので、それも踏まえて再度検討し、御相談させていただければと思います。
- 【委員長】 他に何かございますか。特に資料2については、環境省に報告しますので、この内容で報告していいかどうかについて、この場で協議いただければと思います。

- 【宇野委員】 資料2に関して、実施区域は岩手県全域となっている中で、12ページにCPUE及びSPUEの地図がありますが、CPUEとSPUEをもう少し細かく解析し、捕獲頭数が多い場所はもちろんのこと、目撃が多い箇所、つまり高密度の場所での捕獲が伸びれば、捕獲効率が上がると思います。このデータはもう少し様々な解析ができると思いますので、環境保健研究センター等を含め、GIS解析等により様々なことが分かってくると思います。このままだと少し見づらいこともあますし、五葉山周辺など、ある程度捕獲効率の良い場所をピックアップし、そこでの捕獲圧を高める等、そのような計画性を高めていくと良いと思います。さらに、糞塊のデータを重ね合わせる等でいろいろなデータを科学的に組み合わせることを検討いただければと思います。
- 【委員長】 事務局から何かありますか。
- 【事務局】 捕獲する際の目撃効率等についてももう少しデータの見せ方を検討して、資料として契約の相手方にお示しすること等により、捕獲頭数の増加につなげていけるよう検討していきたいと思います。ありがとうございました。
- 【委員長】 他になければ、資料2についてこの内容で環境省への報告としてよろしいでしょうか。特にないようですので、事務局ではそのように手続きをお願いします。
一通り議題について審議いただきました。この他何かありますでしょうか。なければ、事務局にお返しします。
- 【事務局】 堀野委員長、議事進行ありがとうございました。委員の皆様も長時間にわたっての審議、まことにありがとうございました。それでは、以上をもちまして平成30年度シカ管理検討委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。